

演題名	黒毛和種供胚牛における血統別採胚成績の検討		
発表者 氏名	小松 洋太郎	所属	飯田家畜保健衛生所
<p>今まで実施してきた採胚について、供胚牛の血統に注目して分類を行い、採胚成績に差があるかどうか検討。実施期間は、2007年5月から2012年11月までの5年7カ月間。供胚牛は県内農家40戸に飼育されている178頭。過剰排卵処理は漸減投与法により実施。供胚牛の血統は、糸桜系、気高系、但馬系の3分類とし、ハーフの場合は父系を優先。供胚牛の父を1代祖、母の父を2代祖、母の母の父を3代祖とし集計。供胚牛代祖の血統別区分における種雄牛頭数は糸桜系20頭、気高系17頭、但馬系39頭で計76頭。採胚延べ頭数は394頭。1代祖では気高系が183頭と最も多く、1頭当たりの総卵数及び移植可能胚数も他系より多かった。2代祖では但馬系が202頭と最も多く、1頭当たり移植可能胚数が他系より多かった。代祖の組合せは22通りあり、その内多い組合せは、但馬系×気高系×但馬系が68頭、気高系×但馬系×但馬系が57頭、気高系×但馬系×気高系が48頭であった。</p>			